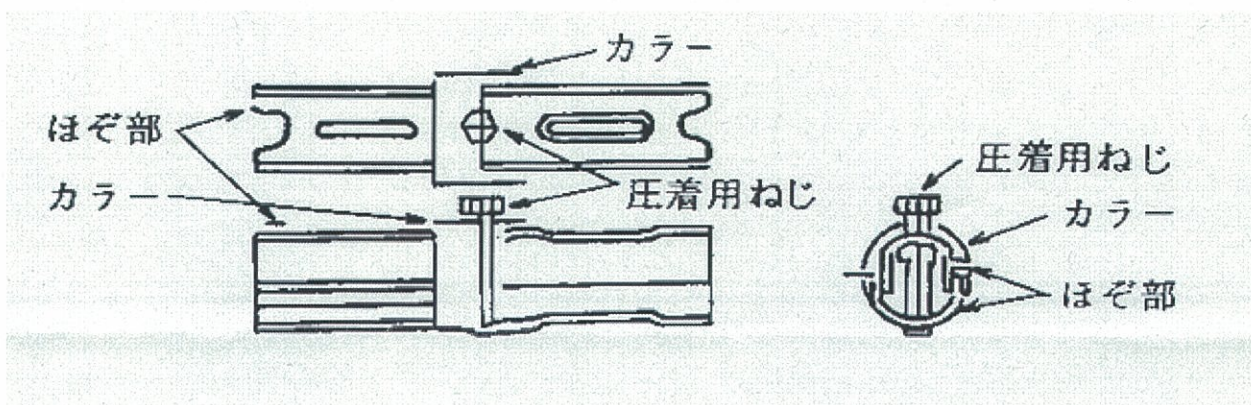
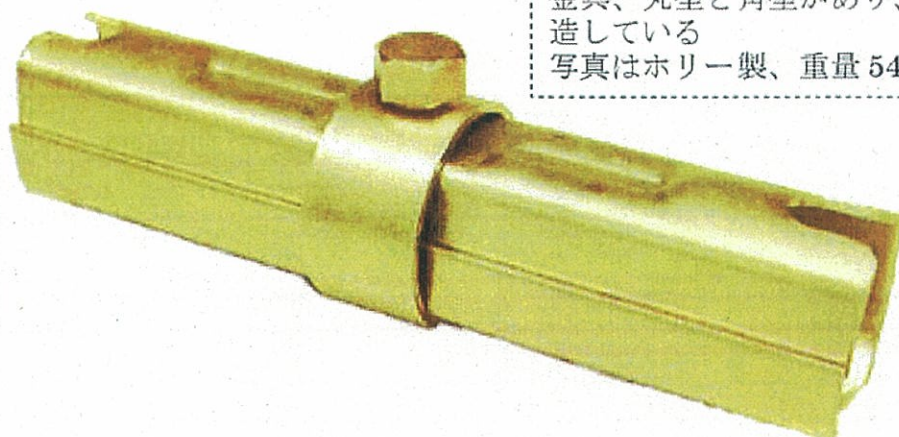


1 ポンジョイントの構造

現在、市販されているポンジョイントの構造は、下図の形式が多く、写真のような外観のものである。



通称「ポンジョイント」と呼ばれるジョイント金具、丸型と角型があり、複数のメーカーが製造している
写真はホリー製、重量540g



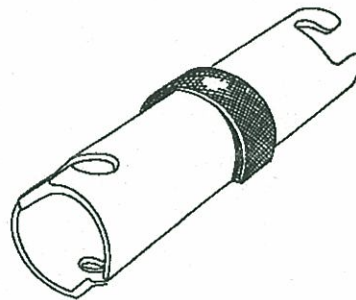
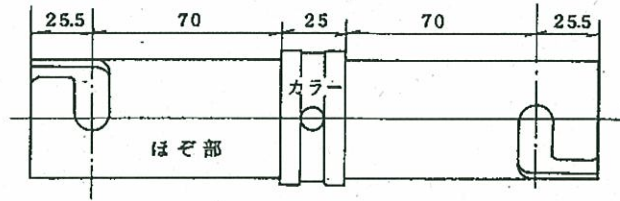
2 ポンジョイントの製造メーカーの例

以前は6社ほどが把握されていましたが、現在確認できた3社を参考として掲載しますが、これ以外の製造者でも同様のポンジョイントを製造しているかもしれません。

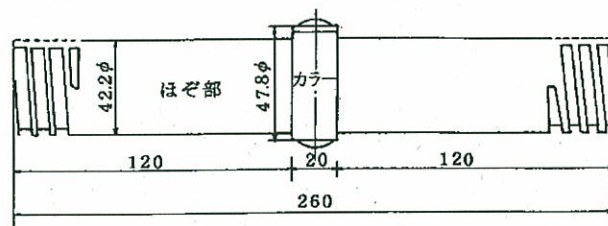
- | | | |
|-----|--------|------------------|
| (1) | 信和(株) | 岐阜県海津市平田町仏師川30-7 |
| (2) | ホリー(株) | 東京都江東区富丘2-9-11 |
| (3) | (株)マルサ | 新潟県三条市三貫地新田972-1 |

【参考】規格を具備した継手金具としては、次のような形状のものがあります。足場用には、このような継手金具を用いる必要があります。

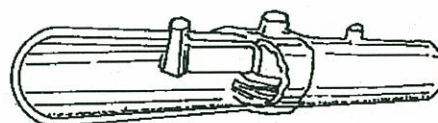
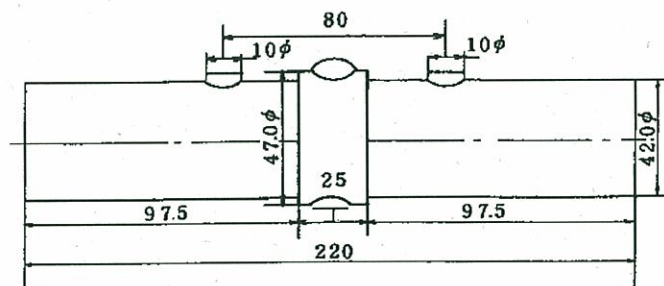
規格を具備した継手金具の例 1



規格を具備した継手金具の例 2



規格を具備した継手金具の例 3



単管ジョイントにボンジョイントを使用して発生した災害の事例

高さ約9.7メートルの3階建てビルの側面モルタル塗装、焼き付け塗装、屋上防水塗装工事に伴い、ビルの周囲に単管足場を組み立てる作業時に災害が発生した。

足場の建地は、2メートル、4メートル、4メートルの合計3本の単管をつなぎ合わせた、延長10メートルのものを、1.8メートル間隔で設置するものであった。建地の組み立て方法は、①地上において労働者2名が4メートルの単管を支えて建て、②屋上部分からは労働者1名が2メートルと4メートルの単管をつなぎ合わせたものを下ろし、③建物の中間の高さにおいて労働者1名が上から下ろしてきた単管と下で支えられている単管をつなぎ合わせるというものであった。

各単管をつなぎ合わせるジョイントは、切り欠き式によって抜け止め機能を有するものもあったが、大半は摩擦接合式の「ボンジョイント」が使用されていた。

14本の建地を建て終わり、15本目を建てるために、屋上の労働者が2メートルと4メートルの単管をつなぎ合わせたものを順次下ろす作業中に、上側の2メートルの単管を持った時、ボンジョイントで接合されていた下側の4メートルの単管が外れて鉛直方向に落下し、直下にいた労働者に激突し死亡した。

